

ナスおよびトウガラシ遺伝資源の 青枯病抵抗性検定



図1 ナス遺伝資源への接種



図2 トウガラシ遺伝資源での検定



図3 ナス遺伝資源の種子増殖

表 ナスおよびトウガラシ遺伝資源の青枯病抵抗性

品目	品種・系統	検定1回目 ^{z)}		検定2回目 ^{y)}	
		供試 個体数	発病度 ^{x)}	供試 個体数	発病度 ^{x)}
ナス	ナ29	2	50.0	7	42.5
	ナ30	7	17.5	10	42.5
	竜馬(罹病品種)	9	100.0	10	100.0
	台太郎(抵抗性品種)	10	12.5	10	10.0
トウガラシ	ト3	14	51.8	15	70.0
	ト5	12	29.2	15	76.7
	ト22	15	75.0	14	51.8
	ト25	8	78.1	6	62.5
	ト26	15	48.3	13	61.5
	エース(罹病品種)	15	100.0	14	78.6
	ベルマサリ(抵抗性品種)	15	83.3	15	26.7
	台パワー(強度抵抗性品種)	4	31.3	6	0.0

z) ナスは、令和3年4月7日播種、5月10日接種、6月7日調査。
トウガラシは、令和3年4月20日播種、5月27日接種、7月2日調査。

y) ナスは、令和3年5月19日播種、6月28日接種、8月10日調査。
トウガラシは、令和3年6月9日播種、7月15日接種、8月26日調査。

x) 発病度：Σ（発病評点×評点別個体数）/（供試個体数×4）×100

園芸育種担当では農林水産省委託プロジェクト研究で収集されたナスおよびトウガラシについて、青枯病抵抗性検定を実施しています。令和3年度は、ナス遺伝資源40系統と、トウガラシ遺伝資源42系統を用い、青枯病菌を接種して病害抵抗性を検定しました(図1、2)。

その結果、ナスでは2系統、トウガラシでは5系統が対照品種と同程度の抵抗性を示したため(表)、それらの株を自家採種しました(図3)。得られた抵抗性データは農研

機構遺伝資源研究センターのデータベースに追加され、国内での新品種の育成に利用できるようになります。

なお、この研究は農林水産省委託プロジェクト研究「植物遺伝資源の収集・保存・提供の促進(PGRAsia)」によって実施しました。

(園芸育種担当 横田真*、尾崎耕

088-863-4916)

*現 中央西農業振興センター